稲作ワンポイントアドバイス（No.7）

令和７年７月２２日
JA山口県長門統括本部
長門農林水産事務所農業部

1　生育等の状況（水稲定点調査結果より）

※平年値は過去５年の平均

	移植日	草丈	１株茎数	葉齢	葉色
コシヒカリ	5/9 （平年5/9）	長い 98cm（平年85cm）	多い 24.0本（平年18.0本）	平年並 13.3L（平年13.1L）	平年並 4.1（平年4.1）
ひとめぼれ	5/19 （平年5/18）	平年並 85cm（平年84cm）	やや多い 26.3本（平年22.2本）	平年並 13.6L（平年13.1L）	平年並 4.4（平年4.2）
きぬむすめ	5/28 （平年5/27）	平年並 83cm（平年84cm）	多い 29.9本（平年22.0本）	平年並 12.6L（平年12.6L）	平年並 4.1（平年4.3）
あきだわら	6/1 （平年5/31）	平年並 78cm（平年79cm）	多い 23.4本（平年18.7本）	やや早い 12.9L（平年11.8L）	やや淡い 4.2（平年4.6）

●斑点米カメムシ類、特にイネカメムシが、多くのほ場で発生しています。

●一部のほ場で葉いもちが発生し、増加傾向です。

●調査ほのコシヒカリは平年に比べ２～４日早く、ひとめぼれは平年に比べ１～２日早く出穂期となります。

●調査ほ場の出穂期（ほ場のうち50%で穂が見えたとき）の予想

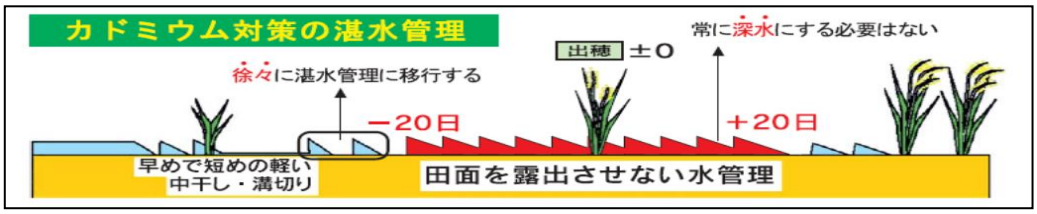
品種	移植期	調査ほの幼穂長	調査ほ場の出穂期予想
きぬむすめ	5月下旬	1mm未満	8/14～16
あきだわら	6月上旬	1mm未満	8/13～15

2　今後の管理のポイント

（１）コシヒカリ・ひとめぼれ

ア　水管理

・カドミウム吸収抑制のため、湛水管理を行いましょう。



・用水不足が懸念される場合は穂ばらみ期～穂揃期を中心に、重点的に潅水を行いましょう。
・用水路とほ場周りをチェックして、水漏れを防止しましょう。
・揚水ポンプを点検しましょう。

（２）きぬむすめ・あきだわら

ア　水管理（地域の用水の状況や水利のルールに基づいて管理を行って下さい）

・中干しを終えたあと走り水を行い、出穂20日前から湛水管理を行いましょう。
・用水路とほ場周りをチェックして、水漏れを防止しましょう。
・揚水ポンプを点検しましょう。

イ　肥培管理

〇緩効性肥料（元肥一発）の場合

・極端に葉色が淡い場合は、出穂前15日に、窒素量で１～1.5kg/10a、追肥を行いましょう。

〇穂肥一発肥料（穂づくり640）の場合

・幼穂１mmを確認して窒素成分で4.8kg/10a（穂づくり640 30kg/10a）を施用しましょう。

〇分施の場合

	穂肥１回目 （出穂前２３日頃、幼穂１mm）	穂肥２回目（出穂前15日頃）
きぬむすめ	窒素成分で3kg/10a	窒素成分で2kg/10a
あきだわら		窒素成分で3kg/10a

（３）病害虫

病害虫発生予報（7月16日　山口県病害虫防除所発表）

葉いもち	平年並	トビイロウンカ	平年並
紋枯病	多	コブノメイガ	平年並
		斑点米カメムシ類	多　注意報

【葉いもち】

・葉いもちの病斑が上位葉（止葉や次葉）にないか観察してください。病斑を確認次第、直ちに防除を行いましょう。

※日当たりの悪いほ場や葉色が濃いほ場、いもち病に弱いあきだわら等は特に注意しましょう。

・出穂前後の基幹防除を必ず行いましょう。



葉いもち病斑

【紋枯病】

・紋枯病の常発田では出穂前25日～14日に防除しましょう。

【トビイロウンカ】

・出穂前の基幹防除ではウンカ類に登録がある農薬を使用してください。

【斑点米カメムシ類】

- 出穂２週間前までに畦草を刈り終えましょう。
- 液剤・粉剤での防除時期は穂揃期（8割出穂した頃）です。防除後にも斑点米カメムシ類が見られる場合は、穂揃期の７日後に追加防除をしてください。粒剤の場合は、液剤より３～４日早く散布しましょう。
- イネカメムシが見つかったほ場は防除時期を出穂期に早めてください。

◇斑点米カメムシ類写真



イネカメムシ



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ

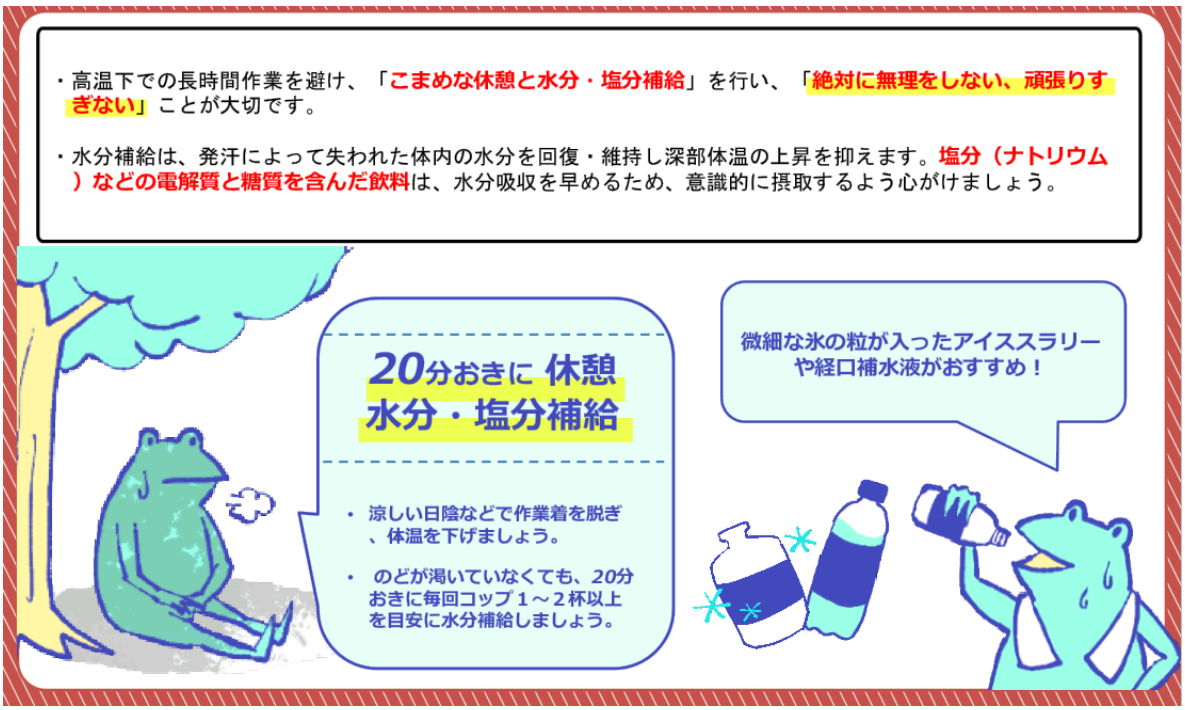


クモヘリカメムシ

（参考）イネカメムシの特徴

- 体長は約13mm、黄褐色で背部両面に白色帯を持つやや細長いカメムシ。
- 他の斑点米カメムシ類と違い、イネに対する依存度が非常に高い。
- 出穂直後から水田に侵入し、多発するとイネが不稔となる。

（４）農作業安全



長門の水稲の病害虫発生状況、生育状況等をLINEで発信中！